

令和7年度 田原市議会運営委員会視察報告書

日 程 令和7年10月15日（水）、10月16日（木）

視察先 1 「予算・決算審査のあり方について」

（兵庫県尼崎市）

2 「政策討論会について」

（大阪府岸和田市）

参加者	委員長	鈴木和基	副委員長	柳元浩幸
	委員	小川貴夫	委員	中神靖典
	"	内藤喜久枝	"	内藤浩
	"	岡本重明		
議長		岡本禎穂		
事務局	大和良行			
	"	太田健介		

1 「予算・決算審査のあり方について」

（兵庫県尼崎市）

令和7年10月15日（水） 13:30 ~ 15:00

対応者 議会事務局 議事課長 大室雅達氏

議会事務局 議事課係長 林智瑞氏

議会事務局 議事課書記 島田直人氏

（1）概要

尼崎市は、兵庫県南東部に位置し、人口は約45.7万人（令和7年3月31日現在）、市域は50.70km²の中核市である。各鉄道路線が東西に走っており、大阪、神戸、京都へ乗り換えなしでアクセスでき、関西の各空港へも1時間以内で移動できる交通の便が非常に良いまちである。市の南部には工業地域、中央部には商業地域、北部には住宅地が広がる形で発展を続けている。

尼崎市議会においては議会の監視・評価機能を充実させるため、PDCAサイクルの取組により、決算及び予算が連動した審査を行っている。9月定例会においては、決算及び施策評価を審査の上、次年度予算編成に向けた市への提言を行い（決算に対する各会派の意見を調整し、決算特別委員会として取りまとめたもの）、2月定例会において、その提言に関する予算への反映状況を確認しながら、次年度予算の審査を行っている。

(2) 参考になった点

- 決算特別委員会と予算特別委員会において、常任委員会と同じ所管・議員構成の5つの分科会を設置し、年間を通じて同一の議員が審査を行うことで、決算の指摘事項が次年度予算に反映されているかを継続的かつ専門的にチェックしている。
- 決算特別委員会において決算及び施策評価を審査し、次年度の予算編成に向けた執行機関への提言を行うことにより、単なる数字のチェックに留まらず、事業の効果や妥当性を検証し、次年度の予算にフィードバックするPDCAサイクルが明確になっている。
- 決算審査について、数値が正しいのかを判断する形から、目標達成等の事業評価に変わっている。
- 施策体系を踏まえた決算の総括審査を行った後、決算特別委員会の最終日の全体会議にて、各会派は決算への意見を表明する。その中で一致する部分を委員会意見として市に提言することは価値がある。
- 提言については市長に文書回答を求めており、2月定例会で説明を受けることとなっている。

(3) 所感

- 年間を通じて審査する体制は非常に優れていると感じた。一過性の議論に終わらせず、指摘事項が次年度予算に適切に反映されているかを継続的かつ専門的にチェックしようという議会の強い意思の表れであり、理想的な仕組みだと感じた。
- 決算特別委員会及び予算特別委員会は、常任委員会と同じ所管、議員構成で行うことで詳しく審査することができる。本市議会の審査においても、所管委員会ごとに分けて質疑することも良い方策の一つかと感じた。
- 決算審査を重視し、決算と予算が連動する取組は、あるべき姿ではあると思うが、議員定数が多い中核市だから可能なこととも思う。本市を取り巻く環境は厳しく、近隣市では定数削減の動きも出てきている中、考えていかなくてはいけないことである。そうした状況を踏まえて、過度に負担のかからない形で決算・予算の連動サイクルを回す形が作られれば良いと思う。



2 「政策討論会について」

(大阪府岸和田市)

令和7年10月16日(木) 10:00 ~ 11:30

対応者 岸和田市議会 議長 烏野 隆生 氏
議会運営委員会 委員長 岩崎 雅秋 氏
議会運営委員会 副委員長 中岡 さおり 氏
議会事務局 総務課長 岸田 孝一 氏
議会事務局 総務課主幹 山崎 一雄 氏

(1) 概要

岸和田市は大阪府南部に位置し、人口は約18万6千人(令和7年10月1日現在)、市域は72.72km²のまちである。17世紀初頭より城下町として栄え、明治中期以後には紡織工業都市として発展した。水産業も盛んで、市内には3つの漁業協同組合があり、府内屈指の漁獲量を誇る。また、約300年の歴史と伝統が受け継がれる岸和田だんじり祭りは全国的に知られており、祭礼には多くの見物客が集まる。

岸和田市議会は議会基本条例に、市政に関する重要な施策について共通認識を醸成するとともに、政策水準を高めるため活発な意見交換を行うことが定められていることから、平成23年度より政策討論会を実施している。政策討論会においては、全議員が3つの分科会に分かれ、任期の1年をかけて各分科会が決めたテーマについて討論・研究を重ね、最後に提案書・提言書を市に提出する。

(2) 参考になった点

- 政策討論会において、会派代表者会議で全体ルールなどの運営方針を決定し、毎月開催される3つの分科会においてテーマに沿って討論を行う。討論終了後、毎年4月に開催される全体会議において、各分科会は最終的な討論内容を報告し合い、更に討論を重ねる。
- 3つの分科会は、常任委員会とは違うメンバーで構成され、考え方には縛られない工夫がある。また、各分科会において全員参加で意見をまとめていくことを大切にしている。
- 政策討論会は、全体会議、分科会ともに公開とし、市民の傍聴が可能である。また、会議録は作成しないが録音は可能で、要点記録を作成してHPにアップロードしている。
- 分科会で作成した提案書・提言書に対する市の回答は現在のところ求めていないうが、回答を求める運用への変更も検討中とのことであった。
- 議員が政党や会派の枠を超えて市政の重要な施策について意見交換を行うことで、全議員間に共通の認識を深め、議論を通じて議会全体の政策水準を高めることを明確な目的としている。

- 分科会の討論成果を全体会議で報告し、市へ提案書・提言書を提出することで、議論を行政運営に反映させる実効性を担保している。

(3) 所 感

- この政策討論会は、単発の定例会での一般質問で終わらせらず、1年という長期にわたり一つのテーマを深く掘り下げて調査・討論することを議員に求めており、議員一人一人が市政課題に対する本質的な理解を深め、実効性の高い政策立案能力を系統的に高めるための、極めて効果的かつ実践的な訓練になっていると思った。
- 「学校給食での地産地消」や「地域文化資源の活用」など、市民の生活や地域資源に根ざした具体的なテーマを選定しており、政策の実効性に期待が持てると思った。
- 政策討論会を議会基本条例に明確に位置づけて継続して実施していることは、岸和田市議会が自ら議論を活発化し、政策を追求する「政策形成型議会」を目指す強い決意の表れだと思う。この取組は、市民に開かれた、透明性が高く機能する議論重視の議会を実現する上で、他の議会にとって重要な先進事例となると思った。

